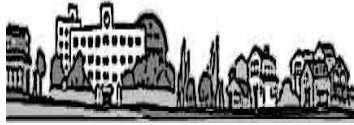




浜ぼうふう

～人，まち，自然が私たちの学校～



太夫浜小学校だより
令和2年12月11日

<http://www.tayuhama-e.city-niigata.ed.jp/>

同調圧力 < 支持的風土

校長 野瀬 浩司

少し前のことですが、「同調圧力」を扱った書籍の売れ行きが好調だという新聞記事を目にしました。

この言葉が、いつから使われるようになったかは分かりませんが、「少数意見をもつ人が、多数意見に合わせざるを得ない状況に追い込まれてしまう」といった意味合いです。

新型コロナウイルスの感染拡大により、マスクの着用やソーシャルディスタンスが定着し、お盆の帰省や一部の娯楽が自粛されました。そんな中で、少しでもみんなと違う行動を取ると批判されたり、必要以上に世間の目を気にしたりする状況が生まれました。ニュースではなく、実際に自分が経験した方もおられるかもしれません。正に、同調圧力が働いたと言えます。



はまっ子祭りの様子(ジェスチャーゲーム)

コロナ関連でなくても、社会では、「仕事が早く終わっても、自分だけ帰るのは申し訳ない」「同僚や仲間からの飲み会などの誘いを断れない」といったケースが考えられます。学校でも、「学級会でAの意見が優勢になると、Bの意見が言いにくい」「自分の好きなものを選んでいいのに、自分以外に挙手する人がいないと手を下げてしまう」などは、実際に見かけることがあります。

日本人は、昔から「和を大切にする」考え方が共有されているので、組織や集団がうまくいくため、いたずらに人と衝突することを避けるために、自分を抑える術が身に付いているのだ、との考え方もあります。学校でも、自分の主張を通すだけでなく、折り合いを付けて問題を解決することも必要だ、と教えます。それでも、**同調圧力に負けない子どもや学級集団を育てたい**と思います。

大切にしたいことは、「間違った意見を言っても笑われない」「少数意見も大切にする」「相手の話をきちんと聞く、気持ちを受け止める」「困っている人に手を差し伸べる」「一生懸命な人を応援する」「小さな努力が認められる」などです。それらのことを全職員が共有し、授業・学校行事・委員会活動・清掃などあらゆる教育活動で実践・指導していくことです。組織的・継続的な取組により、「**認め合い、助け合い、期待をかけ合い、高め合う温かい学級の風土**」が醸成されていくのだと思います。新潟市教育委員会では、それを「**支持的風土**」と呼び、今年度の重点に掲げています。

支持的風土のパワーが、同調圧力を跳ね返す太夫浜小学校にしていきたいと思います。